

東京都立上野高等学校 令和8年度 学校経営計画

東京都立上野高等学校 統括校長 渡邊 範道

1 目指す学校

(1) 教育目標

- 「自主協調」－個性の伸長に努め自主的に行動するとともに、人格と人権を尊重して互いに協力し合う態度を身に付けさせる。さらに、自律的な態度を伸長するとともに、規範意識を高め、社会の一員として社会に貢献できる人間の育成を目指す。
- 「叡智健康」－高い知性と豊かな情操を養い、自ら学び考え行動する創造力を身に付けさせるとともに、体力を向上させ、社会の発展に貢献し得る心身ともに健康な人間の育成を目指す。

(2) スクール・ミッション

「自主協調」「叡智健康」の具現化に向け、国際社会で活躍する新しい時代のリーダーにふさわしい豊かな教養と人間性を育成するため、各種実行委員会による活動などの特色ある教育活動を通じて、「幅広い教養」「豊かな人間性と社会性」「優れた課題解決能力」をもち、グローバル化する社会で活躍できる人材を育成する。

(3) スクール・ミッションに基づき定めたスクール・ポリシー

① グラデュエーション・ポリシー

「幅広い教養」「豊かな人間性と社会性」「優れた課題解決能力」をもち、グローバル化する社会で活躍できる人材。

- 1 国際社会で活躍できる幅広い知識と確かなコミュニケーション能力を有する。
- 2 自ら課題を発見し、道筋を立てて解決に導く、思考力と行動力を有する。
- 3 多方面に興味をもち、自他を尊び協働できる、人間性と社会性を有する。
- 4 自身の個性と適性を理解し、社会の中で自己実現できる能力を有する。

② カリキュラム・ポリシー

- 1 知力・学力、受信力・発信力の育成
- 2 課題発見力、論理的思考力、課題解決力の育成
- 3 行動力、協働力の育成
- 4 自己実現力の育成

③ アドミッション・ポリシー

- 1 本校の教育目標「自主協調」「叡智健康」を理解し、本校への志望の意志が明確である生徒
- 2 学習成績が優秀で、国公立大学や難関私立大学への進学意志が強く、自主的・意欲的に学習に取り組む生徒
- 3 入学後も向学心に燃え、将来の進路実現に向けて常に努力を続けることができる生徒
- 4 学校行事、部活動、有志活動、ボランティア活動等に積極的に取り組み、入学後も継続して活動する生徒

※ 特に推薦選抜においては、国公立大学への現役合格を目指すという目的意識の高い生徒

※ 「文化・スポーツ等特別推薦」においては、活動を3年間継続し、学業と両立できる生徒

2 中期的目標とその達成に向けた方策

教育目標、目指す学校を具現化するため、「幅広い教養」「豊かな社会性と人間性」「優れた課題解決能力」の向上を教育活動の目標とする。

(1) 生徒の希望する大学進学を実現するための学力の伸長

- ① 組織的な教科指導を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、教科内及び教科間の連携、授業内容や方法の工夫・改善など、3年間を見通した効果的な指導を構築し、生徒の習熟の程度や学習状況に応じたきめ細かい指導を通して、確かな学力の向上を図る。
- ② 学習指導要領や大学入学共通テストに対応し、「文化の杜」上野に立地する学習環境を生かした特色ある教育課程の構築を行う。
- ③ 自主学習教材の活用等を推進し、1年生から計画的・自発的な家庭学習を定着させるよう指導していく。
- ④ 校内研修や教科会、科目担当者の連携を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業が展開できるよう組織的な授業力の向上を図る。
- ⑤ 「東京グローバル人材育成計画 2020」及び「東京グローバル人材育成指針」を踏まえ、「GE-NET EE」や「海外学校間交流推進校」の指定を生かし、英語科の授業における英語4技能伸長を図るとともに、海外姉妹校交流などの国際教育やボランティアマインドを視野に入れた学習活動を推進する。
- ⑥ 「東京都教育ビジョン（第5次）」（令和6年3月策定）、「2050東京戦略」（令和7年3月策定）等に基づき、デジタル技術を活用した教育を推進し、情報活用能力を育成するために、授業や進路指導における一人1台端末を効果的に活用していく。
- ⑦ 社会参画意識を高め、成人として自立するための基礎的な能力や態度を育成することを目指し、主権者教育の推進を図る。

(2) 進路指導と「総合的な探究の時間」の充実

- ① 高い希望をもち最後まであきらめない進路指導を推進し、進学指導推進校として国公立大学や難関私立大学への進学実績の更なる向上を図る。
- ② 自己の進路実現に向けて主体的かつ意欲的に学ぶ生徒を育成するために、学習活動や進路指導と進路行事や「総合的な探究の時間」とを効果的に関連させながら、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫していく。
- ③ 調査研究や専門書購読等の学問的探究の方法を身に付け、調査研究能力や情報収集能力、論文作成能力、プレゼンテーション能力などを高めさせるとともに、読書習慣を身に付けさせるために図書館の機能を充実させ積極的な活用を図る。

(3) 生活指導と特別活動の充実

- ① 望ましい集団活動を通して個性の伸長を図るとともに、生徒の自主的・主体的な活動を充実させ、自己肯定感と学校生活満足度を高める。
- ② 生命尊重教育の拡充を図り、人格と人権を尊重して互いに協力し合う態度を身に付けさせるとともに、よりよい生活や人間関係を築こうとする実践的な態度を育成する。
- ③ 基本的な生活習慣の定着を図り、生徒指導提要（令和4年12月）やいじめ総合対策【第三次】を踏まえ、問題行動の防止やいじめ防止に向けた指導を徹底し、健康的な生活習慣や礼儀と規律を身に付けさせる。

(4) 健康・安全教育の充実

- ① 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」(令和4年3月策定)を参考にした生徒の体力向上及び健康の保持増進のために、保健体育科の授業、運動会・不忍駅伝等の学校行事、部活動等で体力向上の取組を推進する。
- ② 学校の教育活動全体を通して人権意識を高め、自分を大切に思う心、他者を大切に思う心を育むとともに、自己理解・他者理解を促進し、多様性を受容できる資質を培う。
- ③ カウンセリング委員会が中心となり、心身の自己管理能力を高めるための健康教育を推進するとともに、相談機能の充実を図るために、スクールカウンセラー、家庭や警察署等の関係機関との連携を強化する。また、自殺対策基本法の改正を踏まえたSOSの出し方に関する教育及び命の大切さの指導を行う。
- ④ 学校安全委員会や防災教育推進委員会が中心となり、学校の危機管理及び避難誘導等の体制を構築するとともに、関係諸機関と連携して、「自助」「共助」の精神を涵養し生徒の安全確保を最優先した防災対策を推進する。

(5) 積極的な生徒募集活動の展開

- ① 百年の歴史と伝統を有し、「文化の杜」上野に立地する本校の恵まれた環境、教育活動や生徒の特長を中学生とその保護者に発信し、本校を第一志望とする高い志を持った生徒を獲得する。
- ② 志望動向や入試情報の分析、中学生とその保護者の意見等を的確に受け止め、効果的な生徒募集活動を展開する。

(6) 校務の改善と効率化及び教職員のライフ・ワーク・バランスの実現

- ① 管理運営規程に基づく企画調整会議を中心とした組織的な学校運営、校務分掌間の協働体制を一層充実させ、校務の円滑な運営と諸課題の解決を図っていく。
- ② 教員の資質・能力を向上させ、実践的指導力のある教員を育成するため、「東京都教員人材育成基本方針」及び「OJTガイドライン」に基づき人材育成を一層推進していく。
- ③ 学校評価アンケート、生徒による授業評価、学校運営連絡協議会、PTA、東叡会(同窓会)、関係機関、外部有識者、地域町内会等による教育活動評価を活用し、学校経営や教育活動の検証・改善に努める。
- ④ 服務事故や体罰、個人情報等の紛失等の事故の発生により、生徒、保護者、都民の信頼を損なうことのないよう、服務事故防止研修を実施し、服務事故と体罰の根絶に努める。
- ⑤ 「学校における働き方改革推進プラン」(平成30年2月策定)に基づき、長時間勤務の是正と教職員の意識改革を図るよう努め、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ⑥ 経営企画室の学校経営参加を推進するとともに、自律経営推進予算を有効に活用し、教育環境の整備・改善を図る。

3 今年度における取組目標とその達成に向けた具体的方策【数値目標】

(1) 学習指導

▼ 進学指導推進校として、質の高い指導により全ての生徒の希望進路の実現に向け、生徒の状況を丁寧に把握し、生徒の学力を大学入学共通テストの得点率7割以上を獲得できる水準に高める。

- ① 習熟度別授業や少人数授業とICTの活用等による、生徒の習熟の程度や学習状況に応じた指導体制のもと、生徒に主体的・意欲的に学習に向かわせ授業満足度を向上させる。

- ② 生徒の学習意欲を高め学力を向上させるために、朝学習、放課後や長期休業日中の講習、土曜講習、勉強マラソン、自習室開放などを実施する。またスタディ・サプリやTeamsの活用により、主体的な学習習慣を身に付けさせると同時に家庭学習時間の増加を目指す。
- ③ 「GE-NET EE」として、英語に求められる4技能のバランス良い向上を図り、オンライン英会話、JET・ALTの指導等を活用して実践的コミュニケーション能力を高め、英語検定資格取得の充実を図る。
- ④ 「上野学」と連携した生物分野の調査活動や観察・実験などの教育研究活動を推進し、理数教科への興味・関心と優れた資質をもつ生徒の裾野を拡大する。
- ⑤ 各教科・科目及び特別活動で、読書活動の推進や言語活動の充実を意識した活動を取り入れ、グローバル化する社会で活躍できる素地である幅広い教養を身に付けさせる。
- ⑥ 教職員相互の授業見学や校内研修を通して授業力を向上させるとともに、外部模擬試験結果に基づく分析会を充実させ生徒の学力を客観的に把握し、組織的かつ計画的な学力の向上を目指す。

▼ **数値目標** (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	6年度実績	7年度実績	8年度目標
学校評価アンケートで「上野高校の授業は、進度やレベルが生徒に合っていて学力向上につながるので満足している」とする生徒の割合	令和7年度から 質問項目設定	78.7%	80%以上
大学入学共通テスト6教科受験かつ総合得点で7割以上得点した第3学年生徒数	41名	18名	35名以上
第3学年生徒の家庭学習時間(2学期中の平均)	297.6分	330.0分	300分以上
第2学年生徒の家庭学習時間(2,3学期中の平均)	117.2分	107.6分	120分以上
第1学年生徒の家庭学習時間(2,3学期中の平均)	86.1分	86.0分	90分以上
学校評価アンケートで「上野高校は、国際交流の推進や英語4技能の育成に力を入れている」とする生徒の割合	令和7年度から 質問項目設定	71.9%	75%以上

※ 家庭学習時間は、3年生は2学期中、1,2年生は2・3学期中の平均。進路調査での回答時間を(平日の家庭学習時間の平均×5日+休日の家庭学習時間の平均×2日)÷7日間 で算出する。

(2) 進路指導

▼ 進学指導推進校として、志を高くもち最後まであきらめさせない進路指導を推進する。

- ① 教職員が「3年間のキャリア教育」を共有し、生徒の学力を客観的に分析するとともに、補習・講習や勉強マラソン、面談、進路アンケート、模試分析会、校内予備校等の進学指導を組織的に展開し目標に向かい学び合う生徒集団をつくる。
- ② 「東大訪問」「オープンキャンパス」「大学出張授業」「夢ナビプログラム」「ガイダンス」等の進路行事により自分の将来の在り方生き方を考えさせるとともに、自己実現できる能力を養成する。
- ③ 国公立大学を志望する生徒に対しての情報提供を充実させるとともに、より高い目標校を最後まで諦めさせない指導を行うとともに、生徒個々の志望校を把握し、志望大学別に寄り添う指導を実践するための組織的な指導体制を構築する。合わせて二次試験対策を強化するとともに、中期・後期日程の受験を促進する。
- ④ 「総合的な探究の時間」を中心に、全教科による自ら課題を発見し自ら道筋を立て解決に導く学習活動を通して、幅広い知識の獲得を目指すとともに思考力・行動力を育成する。また研究発表を通して、確かなコミュニケーション能力を育成する。
- ⑤ 「総合的な探究の時間」と進路行事や選択科目説明会等とを効果的に連関させながら、生徒の学問的興味・関心と進路意識を相乗的に発展させるよう工夫していく。さらに、それらの成果を活用した「総合型選抜」受験生徒への指導体制の充実を図る。
- ⑥ 第一志望校を2年次のうちに決定させるとともに、2年次の1～3月を受験0学期ととらえ、生徒が志望大学・学部・学科等を明確に意識して受験準備に当たるよう指導する。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	6年度実績	7年度実績	8年度目標
国公立大学（大学校含む）現役合格者数	55名	48名	50名以上
難関国立4大学（東京大、京都大、東京科学大、一橋大）現役合格者数	0名	0名	2名以上
難関私立大学（早稲田・慶應義塾・上智・東京理科・ICU）現役合格者延べ数	34名	42名	45名以上
私立大学（GMARCH）現役合格者延べ数	200名	201名	220名以上
学校評価アンケートで「上野高校での「上野学」などの探究活動は、自分の将来の生き方や学びたい学問について主体的に考えることができる」とする生徒の割合	令和7年度から 質問項目設定	69.4%	75%以上

(3) 生活指導

▼ 自主性の涵養、思いやりと規範意識の向上及び心身ともに健康な人間の育成を目指す。

- ① 場に応じた適切なふるまいを身に付けさせ、思考力・行動力、人間性と社会性を育成し、自律的でお互いを尊重する集団をつくる。
- ② 学校のルールを順守した節度ある生活を送らせるために、挨拶や服装等の指導を継続し、時間を大切にされた品位ある学校生活を確立するよう全教職員による組織的な指導を行うとともに、生徒へのわかりやすい説明に努め、生徒の理解と納得感を高めながら、主体的・自律的に行動する生徒を育成するための生活指導を推進する。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	6年度実績	7年度実績	8年度目標
学校評価アンケートで「上野高校の生活指導を通じて、規範意識が高まっている」とする生徒の割合	74.6%	69.8%	75%以上
学校評価アンケートで「上野高校の生活指導は、生徒の理解や納得が得られている。」とする生徒の割合	令和7年度から 質問項目設定	63.8%	70%以上

(4) 特別活動・部活動

▼ 上高生としての自覚と誇りを育成し学校生活満足度を高める。

- ① ホームルーム活動や学校行事・部活動を通して、道徳教育の充実や思考力・行動力、人間性と社会性及び自己実現できる能力の伸長を図ることを通し学校生活の満足度を高める。
- ② 各学年及び分掌との緊密なる連携の下でホームルーム活動を充実させ、生徒の帰属意識を高める。
- ③ 学校行事や部活動の大会終了後、生活指導部と学年担任団が中心となり、学習環境を整え気持ちの切り替えを促すなど、生徒がメリハリのある学校生活を送れるよう指導する。
- ④ 「部活動に関する総合的なガイドライン」に則り、顧問教諭と部活動指導員及び生活指導部が連携しながら部活動と学習とのバランスを保つよう指導する。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	6年度実績	7年度実績	8年度目標
学校評価アンケートで「上野高校での学校生活は、充実し満足している」とする生徒の割合	80.1%	81.7%	85%以上
学校評価アンケートで「上野高校の運動会や東叡祭などの学校行事は、活発で充実している」とする生徒の割合	81.0%	78.7%	80%以上

学校評価アンケートで「上野高校の部活動は、活発で充実している」とする生徒の割合	80.5%	78.3%	80%以上
---	-------	-------	-------

(5) 健康・安全教育指導

- ① 日頃の学校生活において命の大切さについて考えさせるとともに、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、いつでも悩みを相談できる体制を整える。
- ② 体罰根絶といじめの総合対策に基づいた生徒アンケートを実施し、結果の適切な分析を行うとともに、必要な場合には迅速・適切な対応を行う。
- ③ カウンセリング委員会を中心とした教育相談体制の充実を図り、個々の生徒の状況の把握に努めるとともに、特別な配慮を必要とする生徒情報の共有化を図る。
- ④ 宿泊を伴う学校行事に際しては、学校保健委員会等において食物アレルギーのある生徒情報の共有を徹底する。
- ⑤ 警察署と連携したセーフティ教室や消防署と連携した避難訓練等の体験活動を通して、安全や災害に対する意識を高めるとともに、防災教育推進委員会において地域と連携した防災教育を検討する。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒の割合)

項 目	6年度実績	7年度実績	8年度目標
学校評価アンケートで「上野高校では、教員やスクールカウンセラーなど悩みを相談できる相手や機会が適切に備わっている」とする生徒の割合	72.5%	76.7%	75%以上

(6) 生徒募集・広報活動

▼ 中学生とその保護者及び地域に信頼され支えられる学校づくりを推進する。

- ① 本校を第一志望とする生徒を獲得するために、学校案内の作成、学校ホームページの更新、学校見学会、塾指導者対象学校見学会、学校説明会、授業公開、中学校訪問などを一層充実させ、本校の教育活動とその成果を効果的に伝えていく。
- ② 本校の立地や環境、教育活動、生徒の状況等の特長を「上高らしさ」として打ち出すとともに、本校男子バレーボール部が都教育委員会の「都立学校における部活動の特別強化プロジェクト」の「Premiere Club (プレミアクラブ)」の「Tier1」に指定されたことを受け、本校の魅力を総合的に検討・確立し、生徒募集と広報活動の充実を図る。
- ③ PC委員会が中心となって、学校ホームページにおいて本校の教育活動を積極的に発信するなど学校広報活動を推進する。

▼ 数値目標

項 目	7年度選抜実績	8年度選抜実績	9年度選抜目標
東京都中学校長会進路対策委員会による志望予定(第1志望)調査の志望者数	572名 (1.81倍)	519名 (1.64倍)	550名 (1.74倍)

推薦に基づく選抜応募倍率	3. 1 1 倍 (193 名)	2. 2 5 倍 (144 名)	2. 9 1 倍 (186 名)
学力検査に基づく選抜最終応募倍率	1. 9 1 倍 (481 名)	1. 8 7 倍 (471 名)	1. 9 1 倍 (480 名)
学校説明会、学校見学会、授業公開、夏の学校見学会、放課後の学校説明会での来校中学生・保護者・指導者等延べ組数	2 6 6 5 組	3 2 1 7 組	3 2 0 0 組
学校ホームページの更新回数	4 6 2 回	4 9 6 回	4 6 0 回以上

(7) 学校経営・組織体制

- ① 校務分掌における業務内容の精選を進め、校務の効率化を図る。
- ② 学校運営連絡協議会での意見や学校評価アンケートの結果を校務改善に活用し、校務におけるPDCAサイクルを機能させる。
- ③ 学校閉庁日の完全実施や月1日の「定時退勤日」の設定、育児・介護休暇の取得など、教職員のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進する。
- ④ 情報セキュリティに対する職員の意識向上、教育公務員としてのサービスの厳正についての服務事故防止研修を年間5回以上実施し、体罰や服務事故の根絶に努めるとともに、教員各々が教育公務員としての高い使命感・倫理観を持ちコンプライアンス意識の向上を図る。
- ⑤ 効率的に予算を執行するとともに、効果的な予算編成を行うとともに、職員のコスト意識を高めペーパーレス化を一層推進する。また、学習環境の整備のために、施設・設備の点検や修繕を要望していく。

▼ 数値目標 (アンケートの数値は「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した生徒・教職員の割合)

項 目	6年度実績	7年度実績	8年度目標
学校評価アンケートで「上野高校は、教室、特別教室、体育施設、図書館、自習室等の学習環境が整っている」とする生徒の割合	令和7年度から 質問項目設定	83. 8%	80%以上
学校評価アンケートで「計画的な仕事の進め方により業務の効率化を図り、ライフ・ワーク・バランスの実現を図っている」とする教職員の割合 (昨年度から文言一部修正)	63. 3%	65. 2%	70. 0%

以 上